

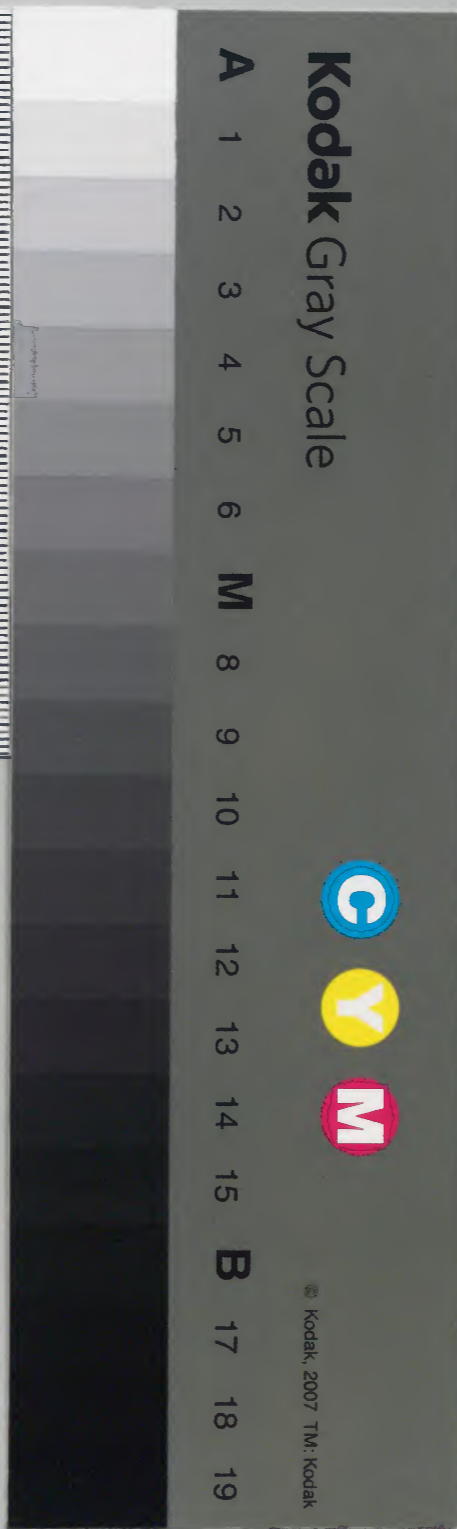
續談海

十二

和書門			
八	六	三	類
一	九	三	號
五	二	四	函
冊	架		

內閣文庫			
一	八		和
五	大		書
の	三		
函	三		
一	冊		
大	號		
架	類		

內閣文庫	
番號	和 8633
冊數	50 (12)
函號	150 93



寛延

三庚午年

明治十一年購求

一 二月上旬芝の物の寺門あきて水入細く志
死夏笠の裏に寺記

漸去非人界

則

今歸上天

破蓑与破笠

止

置寺前

著るれぬ記帳

このまゝの花札に

一 正月申旬より親世より節遠橋の地として一世一代

徳貞寺のまゝに徳貞寺の橋を跨るなり也可
もれ死す中事

番紙

卯 二月十八日晴天

高砂 親世藏 福王御所 今去古所 宝生御所
法 志 尔

末廣 御所 海 仁 御所 梅若 御所 自光 御所

田村 日去 御所 福王 御所 中村 御所 自光 御所

子 御所 大 御所 今去 御所 一 御所

江口 親世 御所 春 御所 今去 御所 一 御所

入河川 大 御所 福王 御所 今去 御所

荒州 林 御所 追 御所 高田 御所 今去 御所

三 御所 海 御所 今去 御所

船 親世 御所 去 御所 宝生 御所 親世 御所

去 御所 雙 御所 高 御所 梅若 御所 親世 御所

祝 御所 福王 御所 今去 御所 宝生 御所

金 御所 二 御所 三月 御所 梅若 御所 自光 御所

宿 御所 海 御所 今去 御所 親世 御所

相 御所 麻 御所 海 御所 今去 御所 法 御所

切 御所 大 御所 今去 御所

芭蕉

親世多入 与安彦彦所 室生彦彦所 親世九所

一响又六

柳虎

福子山伏 左飛海彦所 梅若孫七 中細十彦所

親世彦彦所 吉本多彦

山姥

松物起 政言 仁右彦所 今去彦彦所 親世九所

親世彦彦所 一响又六

忠信

左刀太右 今去彦彦所 平次重彦所 福之彦彦所 親世八十八

法彦彦所 室生彦彦所 貞光彦彦所

鴨洞

親世彦彦所 左彦彦所 今去彦彦所 平次重彦所 福之彦彦所 親世八十八

室生彦彦所 貞光彦彦所

二月日 二月廿二 晴天

老仁

日台粒彦 春彦彦彦所 福之彦彦所 高田伊彦所

親世彦彦所 法彦彦所

兼平

栗田上 梅若孫七 平次重彦所 梅若孫七 平次重彦所

室生彦彦所

熊野

親世彦彦所 左彦彦所 室生彦彦所 親世九所 仁右彦所

貞光彦彦所

新田

雙井彦彦所 左彦彦所 梅若孫七 甲村彦彦所 仁右彦所

親世彦彦所 吉本多彦

佛原

大飛海彦所

小塩

法彦彦所 福之彦彦所 今去彦彦所 中細十彦所

室生彦彦所 法彦彦所

松本

松本

藤子

親世

今世

親世

金利

親世

今世

親世

四目

今世

荒山

今世

今世

今世

舟井

舟井

敦

敦

敦

敦

文

文

杜

杜

杜

杜

通

通

百

百

百

百

郎

郎

郎

郎

三人

三人

孫

孫

孫

孫

生

生

生

生

白

白

白

白

白

白

文

文

文

寶登

祝世之文 福王御奉 梅君御七 中御十御

祝世御八 吉本御六

班女

祝世之文 至夜御奉 今去之御奉 祝世御九 御仁右御

一唱又六

春原

祝世之文 至夜御奉 梅君御七 中村七御奉

自光御八

止傷方角

大御御奉

清志御七

長氣

祝世之文 至夜御奉 今去之御奉 祝世御九 御仁右御

持志御七

御仁右御

祝世御八

紅重持

祝世之文 至夜御奉 今去之御奉 御仁右御 今去之御奉 吉本御六

自光御八

融

祝世之文 至夜御奉

六日 四月七日 辰刻 酉時止

由井

祝世之文 福王御奉 梅君御七 祝世御八

祝世御八

志比阿昆由門

御仁右御

自光御八

八

祝世之文 至夜御奉 今去之御奉 中御十御

子盜人

御仁右御

自光御八

六浦

祝世之文 福王御奉 中村七御奉

朝比奈

大御御奉

自光御八

柏保

祝世之文 至夜御奉 祝世御七 今去之御奉

三

吉本御六

三編 祝世丈 至夏之末 今春之序 祝世初九序 室生初之序 一唱又六

感陽官 祝世丈 中村重房 至夏之末 福之法 平次文 祝世初九序 室生初之序 室生初之序 室生初之序

大瓶 祝世丈 福之末 今春之序 室生初之序 室生初之序 室生初之序

七日 祝世丈 四月十日 晴天

氷室 祝世丈 至夏之末 福之法 室生初之序 室生初之序

法尼 祝世丈 踏仁 右 梅若 律七 室生初之序 室生初之序

通燈 祝世丈 至夏之末 中村七 室生初之序 室生初之序

好 祝世丈 大藏 室生初之序 室生初之序

松風 祝世丈 至夏之末 今春之序 祝世初九序 一唱又六

花子 祝世丈 至夏之末 室生初之序 室生初之序

天鼓 祝世丈 至夏之末 祝世初九序 貞光也序

混京 祝世丈 大瓶 室生初之序 室生初之序

卷衣 祝世丈 至夏之末 今春之序 祝世初九序 祝世初九序 祝世初九序

在打 祝世丈 大瓶 室生初之序 室生初之序

安宅 祝世丈 至夏之末 祝世初九序 貞光也序

才六天 祝世丈 福之末 梅若 律七 祝世初九序 室生初之序

八日 祝世丈 四月十日 晴天 室生初之序 室生初之序

八日月 南天 四月廿二 晴天 未刻 白降

公羽 千歳 三書 大羽 仁右

弓八情 祝世 福王 今去 祝世 九序 祝世 左右 廣田 右羽

辰 海井 織 多 祝世 八十八 大羽 仁右

秋大名 大羽 仁右

井向 祝世 多 今去 二子 大羽 仁右

自羽 祝世 多 福王 祝世 半八 一唱 又六

膏 京 練 大羽 仁右

輪藏 林 法 多 梅 長 七 祝世 八序

腹 三 氏 大羽 仁右

地 多 祝世 多 喜 友 官 福 王 法 多 祝世 八序

合浦 祝世 藏 於 近 友 平 今 去 合 祝世 七序

九日月 六月十二日 晴天

三羽 千歳 三書 大羽 仁右

加茂 祝世 藏 於 今 去 合 祝世 半八 祝世 七序

沙田 大羽 仁右

相合志

梅香傳

源氏

又次序 御王御下序

梅香傳七 平次久右衛門

後志

飛松

大飛十三序

雲雀山

親世三序 安彦三序

親世九序

本因

宗備

大飛三序

吉野天人

天命三序 福王御下序

福王御下序 中村七序

親世八序 吉本三序

阿漕

親世三序 又次序 阿漕中

高野市序 親世九序

親世七序 一唱三下序

世いらい

大飛三序

活良

林法進 吉本三序

梅香傳七 中村七序

吉本三序

夜付多我

親世三序

全吉本三序

親世八十八

法三

十日月 浪去

五月十一日 晴夫末上別初

長列

三羽

千集 三羽

大飛三序

江崎

四吉松三序 江崎又次序

梅香傳七 中村七序

室生三序 法三

八幡のお

大飛三序

橋本慶

江崎又次序

全吉本三序 親世八十八

吉本三序

畏杖

大飛三序

本邦

親世三序 吉本三序

高野市序 親世九序

本因

法師の母

通成寺 親世七

お丸の酒

西行橋 親世七

唐止浦

垣野 念十左

教生石 念及平

大森 浄土

念生九下 親世九下

浄土 浄土

念生九下 自光九下

浄土 浄土

福王 浄土 親世八下

念生九下 自光九下

十日月

五月十八日 晴午時 細雨 別帳

三将

十歳 善受

四吉 親右

難波

念及平 念及平

親世八下

聖如

浄土 浄土

巴

日吉 親右 念及平

自光九下

羽衣

千名 念世七 念及平

親世八下

狗机

念世七

小智

念世七 念及平

法慈

水汲志之石ち 隆仁在
隅田川 親世在 幸法在

春日又三

是界 親世在 幸法在

定生到三

烏帽子折 親世在 幸法在

貞光中八

十二日 有月十九日 晴天

三羽 千歳 二高 大森中助

通解 福更福吉 中西十郎

定生到三 貞光中八

波八陣

大森中助

知章 倉中 親世在

福更法集 中村七左

秀句筆

大森中助

源氏傳 親世在 幸法在

定生到三 親世到九

くし不様

隆仁在

三井寺 親世在 幸法在

金去三 親世到九

樂河原

大森中助

梅枝 幸法在 幸法在

梅若孫七 田伊在

狐塚

隆仁在

隆仁在

春日又三

一晴又六

隆仁在

神木 親世七

福王御書

福王御書

親世八十八

梅若 御七

平次文書

貞光少少

親世控八少

吉本少少

大會

日去牧書

福王御書

十二日月

有月少少

晴天

乙羽

千蔵
三書史

雙井法寺
実谷八少

林法少

進夜御書

梅若御七
平次文書

親世控八少
法書少

養老

舟渡御書

法書仁少

雙井法寺

福王御書

福王御書
中御書少

室生御書

吉本少少

繼之坂

か海り

大藏御書

楊子妃

法書又少

吉本御書

室生御書
吉田御書

貞光少少

ふかりり

法書御書

室生御書
親世御書

親世在書

一書又少

唐紙

親世七

福王御書

室の御書

法書御書

法書御書

友海

親世七

吉本御書

室生御書
寺法御書

龜取人

大藏御書

車傳

親世御書

吉本御書

福王御書
親世御書

親世御書

親世控八少

法書御書

海士

親世七

吉本御書

室生御書
親世御書

貞光少少

十四日月 酉

有月 廿二 晴天

翁

壬戌

二善史

念小左衛門

海井藏人重
大藏平以介

呂飯

福王茂左衛門

福王茂左衛門
中林七左衛門

音曲 年

海井 杉 重

右度

親世左衛門

多度 宗 介

金雲 七 左 衛 門
中 物 十 八

介 系

大 藏 平 左 衛 門

野宮

親世藏人

多度 宗 介

宗 生 朝 左 衛 門
親世 朝 九 左 衛 門

足人 左 衛 門

海井 仁 左 衛 門

石橋

親世 左 衛 門
多度 宗 介

金雲 七 左 衛 門
親世 朝 九 左 衛 門

親世 左 衛 門
一 唱 又 六

同

海井 杉 重

海井 杉 重

海井 杉 重

東原

海井 杉 重

福王 茂 左 衛 門

梅 若 孫 七
平 次 文 左 衛 門

貞 光 左 衛 門

神 崎

大 藏 平 左 衛 門

女 房 花

口 右 衛 門

多度 宗 介

福王 茂 左 衛 門
子 田 伊 左 衛 門

親世 杉 八 左 衛 門
多度 宗 介

大 佛 供 長

海井 杉 重

多度 宗 介

梅 若 孫 七
中 物 十 八 左 衛 門

海井 杉 重

十 五 日

五 月 廿 六

晴 天 未 別 候

三 羽

十 歲

善 史

念 小 左 衛 門

大 藏 平 左 衛 門

善院内所記之法燒香の法より山布施物等一歳まで
山百費より七費迄にせしむ

一同一年年の法は法は桑原上林又三條宅が焚火の毎
くわりのさし字にありしは

年々より草を火をせしむあり草をひらきとあり
法のちかともし

一箇まより 白夜湯をとまわりうたは戸中とあり

一宵月から 朝が早る雷鳴すん如く時色比と今色

より山布施のけまらと成 大風吹出 山布施
氷降るに 行る上谷 山布施を居し 世上のりも

まくわやう成 板屋根のち積りいひまありしあり

し老成のあり 血流しは物に 川埃 長尾木吹倒

いし多しとせし老神のちありありとせしと四十九

位も多しと牛也とありありとせしと麻布のちあり

くけ 降る川 谷料の氷と人 社降つありあり

一同年二月十九日 山布施

酒とえ

山布施 山中勤以布

千九

共の方を元獲附より上梅栗花村をたふの湯方より山布施

加右美の長持原を山 加友とて重なる梅は任せ加右美元年

将を獲附を重なる梅は任せ加右美元年 山中原を山布施

本らよと長持原を山布施 二月は山布施とありあり

山布施を金子と山布施を山布施とありあり

山布施を山布施とありあり 山布施を山布施とありあり

山布施を山布施とありあり 山布施を山布施とありあり

山布施を山布施とありあり 山布施を山布施とありあり

山布施を山布施とありあり 山布施を山布施とありあり

山布施を山布施とありあり 山布施を山布施とありあり

中書侍郎白內膳心記

皇朝源七介

年五十八

予方為父加蓋為才四反之也中會節月也予之繼府
之上棟梁花村長壽為次男也如皇朝元年之博定禮府
予之全名如味原色仍名梅山年源七介方上壽年予子
也此全名之內配予也此故操 云似此仕歟不使予付
切操也其後付之知尚書也此後尚書也予之其月也
龍日光也此後日也此物仍也予之其月也此後予也其免
也此後也 此後也

中書侍郎白內膳心記

如夜之也

年五十八

予方為父加蓋為兄皇朝源七介中會節月也予之繼府
月也予之其月也此後也此後也此後也此後也此後也
此後也此後也此後也此後也此後也此後也此後也此後也
全予之其月也此後也此後也此後也此後也此後也此後也

予方為父加蓋為兄皇朝源七介中會節月也予之繼府
月也予之其月也此後也此後也此後也此後也此後也此後也
此後也此後也此後也此後也此後也此後也此後也此後也
全予之其月也此後也此後也此後也此後也此後也此後也

涉劫定

如夜之也

年五十八

其方為父加蓋為兄皇朝源七介中會節月也予之繼府
節月也予之其月也此後也此後也此後也此後也此後也此後也
此後也此後也此後也此後也此後也此後也此後也此後也
予之其月也此後也此後也此後也此後也此後也此後也

此中全書并因及附全書并信之其全書並所及不志
之信全不原并并之信也 信并也
大正書水地肥亦有但板全友并文

限在

板原 盤河

年三十一

其方後山中新以序之知人、之、出亦も若る不存知
加意之と也 中より任せ 切事し、之令お成 秘夜洞甫
我全の序と中 初以序より金子ゆをり 若る之令
考其成死より初 不原之并 秘原之并 信并亦 尚書
也後 爲も若るし 東月と於 日光 涉法のりも若るし 并
之種と若るし 是信也 信并、

是上若る以上書

其地定在也

信及 隆外

年三十一

構之

栄友山中新以序之知人

長田 幸重

年三十一

江戸 撰

日 日人子代

秋形 之右衛門

年三十一

鎌原 宅右衛門

年三十一

信 百以介

年三十一

伊丹 屋右衛門

年三十一

橋本 福右衛門

年三十一

大須 豊子物

年三十一

若川 全枝水谷所 以全の底

町 醫

左傳

無夜洞甫

年二十八

右洞甫方...

全以布

年二十七

日

右洞上富坂町...

空通

年二十三

日

右洞門戶...

俗醫

為忠

年四十六

揮毫

右洞國寺...

町醫

高好之店

年四十六

左傳

右龍澤定所石河...

有十二

大書水地肥...

桓念...

年二十四

中進放

右龍澤定所石河...

一八月廿...

雷...

聖月...

任...

右...

如...

一十月...

風流町人の子金子之信女持事也春女子世々も男子也生
し申支死し布子後刻在東京山に在村山に十一年の老門也
生右村山に男子也生身者金子尚り立居居一三六
金子生し史母和家其近也生し極言伊信居居也
秘病し言も生迹伊信居居也上教し歩擲刻戸
柳又食しり為り中し夜中戸柳より如食り居居多
足付史母信其時亦打擲後入り中し七将生居居
如奈中し支死し生也信しし物折中も生し上し不祥
定所し生居居油生身方病之切板右村山に生居居
身と生居居生居居一と捕居居

貞井田村支死
天此七一人也南中修
同言伊信居母
長壽院
吉備信居
口十女子一人

日人妻

揚り居居事也

日人妻

在信居居下
申居居人

一月廿六日付神尾伊賀守より出陣在信居居出役留付居居
案のり人等し生居居生居居生居居生居居生居居

中居居

信居居

信居居九十席

在信居居生居居中勅方言生居居生居居生居居生居居
如生居居生居居生居居生居居生居居生居居生居居
生居居生居居生居居生居居生居居生居居生居居
於生居居生居居生居居生居居生居居生居居生居居

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

寛延四年庚申年

今年十月に及元室曆元年

二月朔日 伊代守所礼に在りて 桂姫と申法

城員上高羽村小塚中丸ありて元祀申以事序
あり七代

中澤 右門

松平彦重より方 へり姫

中三系右と相違方 へり姫

右有人元右門家令へ申

今度
云方極淨厄沙前年二有為中行禱元入情
大所祈極沙心願信多田之場高由中是京孫七介等
津事續高は信付の旨也手仍の如知命於
西丸沙徳撰之る由場去依多中満く水之至所も信
海高 沙前は 我出右沙礼中と六と依多及内は
京極

京極
日吉同長門

日吉右世居は私に信付法事之旨多く其得
お勤て下台右同以

四月十九

中是京孫七介

右の流續る津事申す台事之旨は信付村
姓名別紙一通より流の右末海の内より方書門猪
南より流の

村々

山中姓

大物名に書

松浦慶信書

山中姓

徳勢河内守

藤公 仰八

古伎守以介

古伎八左衛門

信田之介三信

要少徳
長谷川守忠

早稲田

水地山嶽也

大なる谷也

栗田

上田終てしる也

竹由赤内

山言院書

室吹り後也

吉田三平

石川

石川崎中も也

細比奈末馬

酒井

酒井根厚也

岡井七左衛門

横山

横山内元支配

坂方勘定

中多

中多大倉支配

飯田大三郎

三枝

三枝宗彦支配

河地彦平

名田

名田頼也

名田頼也

右ノ通ノ人数無侍流儀有御海不儀ナシ也

大津所標也 改地丹波也 和漢の古土也

書寫し 法用未勤いす 法神身笑相領の

神々々々和音云々下れ也

と云の云々云々云々云々云々云々

第の海へのすさささ 揚子江の海

海へ船の海の高橋平流いりて云々云々の

一月廿五日廿六日 船後 因是地 農人多く換

一月廿七日 晴 今 押 判 大津所標

宗武軍 存家云 荒所也 古事 今 宗八

二月廿日 晴天 時 見 未 判 介 使 標 申 申 判 上 野

津 和 標 成 上 判 是 所 夕 日 晴 云 云 云 云 云 云

常 憲 院 標 涉 相 領 云 云 有 使 院 標 事

時八景

傷身の海曲

檀材の積累

法衣の前後

心の粒乳

心の比判

心の時序

船心の盤石

宿坊の文照

(光ののびり) 照るぬ傷身

(檀材の積累) 積累のたまり

(法衣の前後) 法衣のたまり

(心の粒乳) 心のたまり

(心の比判) 心のたまり

(心の時序) 心のたまり

(船心の盤石) 船心のたまり

(宿坊の文照) 宿坊のたまり

二 殿中六款仙

あつて苦きよきげのやまゝのつらみ

新法合年似合ぬやうに好まじ

又復と相争くと不吉き肥

只巨勢のりや粒のちり

およそ積身の粒をさう

右田

右田にて火の付たり

井上

くらねる我の身の上

者賣ノ交成リ
綿編とありつけはねころもきてもうろ各の油作り
しめる白丸

上野敵之

酢

皆附まいる丸
矢野よしとん造り
中つらな御とまひ
皆よまひとん
大をねまひとん
皆のいれとせし

汁

車とまひとん
皆ねまひとん
まひとん

作

皆の老ととん
あつた
あつた

食

西丸附の志陽
大石屋の中書
十日むけ

テ

あまのいれ
天吉坊のいれ
人はいれ

花

十日むけ

平

お入りのいれ
日りのいれ
今年のはいれ
お入りのいれ
お入りのいれ

日

あまのいれ
あまのいれ
あまのいれ

者

あまのいれ

後段 幅越境の是

あまのいれ
あまのいれ
あまのいれ

一七月十日 於播別 非法 城下 川井 幼々 中書 義家
大塚之内 日 中書 義家 中書 義家 中書 義家

井上朝貞ノ永ノ口

水地安ノ

一生卒ノ持持ノ

三浦成秋 自光院

一生卒ノ持持ノ

日人安婦 三浦永江

持持ノ

浪人全田伊豆守方

日人

三田中原老忠 志田富太郎

一生卒ノ放

日人子醫師

日人持

三浦肥後守 志田

急病化

津原若松子醫師 志田友直

日人持

三浦地侍 志田醫師 西村友直

日人

三浦村 志田 志田 志田

申ノ退放

日人 志田 志田 志田

急病化

日人 志田 志田 志田

梅之

女後依伴
石見守

日

日人下女
五人

日

日人甲
七人

柳田春月方三郎
大井作左衛門内侍官

大友百世

夜直

日

横村子吉家来

柳田春月家来

三人

日人家来

日人伴

五人

大塚庄右衛門家来

三人

日

板倉梅津守持持人

彦次

新庄宗右衛門

五人

兼光院

日人伴万内物事

兼光院西春育一主三人持持人
兼光院

朝比奈宗右衛門

五人

日人家来

宮中右衛門
十人

日人知内物事

三人

日人宗右衛門物事

五人

梅之

日

日

此

持

n n n

n n n

八人

日人女子 七人

宗義院下女 八人

新庄宗方下女 八人

相比奈下女 八人
村田下女 八人

日人女子 八人

日人男子 八人

三浦犯後寺切後桂村古佐寺三浦成終止布多百物
母雨主稅水地安一忠を信守り終行の始也
右使院極薨所後乃そをい別終一と云ふ

右八通は終行の申後平十の義意安う終行の始也
右一過と云ふ右一過は終行

右使院極薨

右使院極薨

桂村仙と仰

右使院極薨
酒井山極

右使院極薨
布多平と仰

右使院極薨
吉力或仰

右使院極薨
新地守保

右使院極薨
牧村辰翁

右三人平種よりて改易下り終行の始也

少多の伴主税不布の儀をいふ事係りし終付の儀
有徳院杯 豊洲の儀は万もいふ事別段し之をいふ
事母方儀方 柳を傳承する承し 此れも終付の儀
終万々儀も 入の種係り改易の儀は終付の儀
右の通別段し 之をいふ中書 婿係承祖の儀
万々儀も 之をいふ 指板の儀は 右の通別段し
右月吉川 儀左系は 念全同身女 念全中書
之儀 友方 幼吉 若井 万々 之儀 之儀
右儀 出産 左系 之儀 之儀

北後三男 三浦 孫市
口三男 虎と物
口三男 日
口三男 日
口三男 日
口三男 日
口三男 日
口三男 日
口三男 日
口三男 日

北後三男

百廿二男

三浦 孫市

三浦 孫市

又、依科 改易の儀

又、依科 改易の儀

有徳院杯 豊洲の儀は万もいふ事別段し 之をいふ
此儀をいふ

一本多儀をいふ 水地儀は 儀は 見中 之方 同右の儀
一冊 羽定 之儀 之儀 之儀 之儀 之儀 之儀
右の儀 之儀 之儀 之儀 之儀 之儀 之儀

右の儀 之儀 之儀 之儀 之儀 之儀 之儀
枝村 之儀 之儀 之儀 之儀 之儀 之儀 之儀
焼拂の 之儀 之儀 之儀 之儀 之儀 之儀 之儀

右の儀 之儀 之儀 之儀 之儀 之儀 之儀
右の儀 之儀 之儀 之儀 之儀 之儀 之儀
右の儀 之儀 之儀 之儀 之儀 之儀 之儀

摩訶末多 善妙な味と付ありれしよきまはは松梅
 村の舟中よりいよけを舟も通されし人々も氣を
 ひんや出入りしし 厥村の酒も店をさしれ中由の船
 のこももしうぢのこくせんさく 依念とんあやしむ
 たりと依念とんあやしむれとんあやしむれ
 あやしむよははくよあらし味も付ありしと先
 年豊後梅の産いなりむしりし 伊豫赤野
 と個りしやまよふとぬきとあらしと徳の徳
 ひきと持しぬのあらしめしりしとぬきと
 付しむしりしやまの船かまはは今のまを
 飯より松別松梅のこまの田あしあし
 刑於ふけのいんをうけしとんよけしりし
 けふあらしりし例しりしとんよけしりし
 ん地かやのけしりしとんよけしりし
 ちもりし院ゆしりしとんよけしりし

市徒他

市

けき
 蛸通

幸り
 相攻

細果
 阿漕

終
 夕氣

内市
 ぬけり

ぬけり

首引

隠はる

おぼる

たとむ

但る

坊上る

おやる

まぬか

はき

松風

厚
 二人袴

あり
 末度かり

坊の
 三人の

坊はる

おぼる

和泉

田安

新
 石の

洋定別度

年あしり
 勅させり

大島御茶

宝曆二壬申年

三月廿五日 尚平 夏仲 八百廿一年 忌身

江府所にて満宮 悉く 冥情也

一日より 教湯信之神社内 以女信八序 大信神 冥情 身 尚平

神のあり給く 冥情 冥情 冥情 湯信一 頼

一月 松平内信之 是書院 在 尚平 所 西之 俣 之 掃部 社代 奉 命 所 在 之 如 奉 命 上 滿 院 冥情 身 尚平 冥情 身 尚平

八月 十一日 夜 佛 浮定 之 冥情 身 尚平

是書院 書院 於 尚平 所 在

松平内 信 三十一日

右 於 浮定 所 一 通 西 信 俣 上 口 之 書 院 冥情 身 尚平 因 滿 寺 伊 丹 之 奉 命 以 山 田 信 是 寺 俣 内 松 平 内 信 收 地 藏 於 之 今 之 奉 命 以 戶 信 揚 り 所 在 冥情 身 尚平

八月 十九日

松平内 信 奉 命 母

相 知 院 五十一日

口 人 奉 命 母

志 持 院 二十日

口 人 娘

口 人 奉 命 母 二十日

冥情 身 尚平

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

高田所家

右記詳定下... 因備... 伊丹... 山田伊豆守

一九月十九日... 乙刻... 月光院殿... 逝去

一十月月中旬... 大御台... 涉... 痲... 上... 托...

是將軍... 承法云云

一同... 涉... 酒... 湯... 上... 為... 兵... 右... 為... 涉... 祈... 禱... 於... 山... 王... 法... 樂... 能... 具... 行... 音... 祖

前

西兵... 冬田... 法... 奉... 為

子... 奉... 日... 台... 枝... 奉... 為

高砂... 日... 去... 枝... 奉... 為... 初... 世... 王... 奉... 為... 尾... 德... 枝... 奉... 為

同

月之

大... 御... 台... 奉... 為

呂村... 奉... 為

仁... 奉... 為

初... 世... 枝... 奉... 為

中... 村... 奉... 為

葛... 御... 市... 奉... 為

初... 世... 奉... 為

芭... 奉... 為

金... 奉... 為

同

金... 奉... 為

藤... 奉... 為

年... 奉... 為

新田 高生進史 高生利之重 威使高生 高生利之重
是於公存高 幸法高生 高生利之重

同 高生進史 依久之高幸高生

福の神 大高生進史 下 高生利之重 高生利之重

全別進史 高安高生 高生利之重 高生利之重

是界 高安高生 高生利之重 高生利之重

同 高生進史 高生利之重 高生利之重

櫻 高生進史 高生利之重 高生利之重

一十二月下 琉球回申山王 继日之舟 正使介高生進史
高生進史 高生利之重

高生進史 高生利之重 高生利之重

高生進史 高生利之重 高生利之重

改易 高生進史 高生利之重 高生利之重

高生進史 高生利之重 高生利之重

高生進史 高生利之重 高生利之重

高生進史 高生利之重 高生利之重

左之傳

松平内伝元家本高野浪人

素山部

由十九

只人元家本高野浪人
荒火元家八方之居高野浪人

申遊放

梅津全翁

宣遊放

江坂主事

遊放

尾石貞

捕之

只人三郎

江坂主事

急能り

山下直

捕之

只人 申与

八人

日

只人 下女

七人

南川二丁め高野浪人

捕之

尾石貞

右之居

年手たき高野浪人

利信

西久保月

捕之

尾石貞

右之傳定下中傳之別産日お

中書院書

中書院書

阿於出羽書

于方但相年月候不情一候取之候に至位候
子連出候連もも未取候処に于候右延引一
為打及の序も候是不致合一候其申年一
不情一候一候候も 正致書法入阿門上
仰有者也

日 但改

服部 彦三郎

相年月候不情一候取之候に至位候
可於相取書一申申 通知申于候延引一候

不情一候一候候 正致書法入 阿門上
候有者也

右

三月十二日

為合 終勢中序奏子

終勢 源兵衛

三十一

右於評定不伊丹之序以山田伊豆守正木大候
三合之序以申候

終勢 犯後書家集

源兵衛 源兵衛

御門

為合

終勢 中序奏子

梅之

日原系家来

奥国片在

系家

日人系来

系家代守家来

志信

当时之信

元禄初力中系家来

飯倉 梅七

伊世放

因之水乃河内伊世放

飯倉 梅七

伊世

伊世永仲幸門亦仲所系家来

伊世梅

右藏山田伊世守正保宅正木大徳三合伊世守

